クルマでつなぐ 人と人

株式会社 島根マツダ

VISION

選ばれ続けよう

～社員・お客様・地域をファンに～

社員みんなが働く誇りと喜びを感じ
お客様からの信頼を一番に考え　感動を提供できるよう努める
そして 企業として地域に貢献し選ばれ続けたい

島根マツダ

〒690-0011 島根県松江市東津田町1083-1
TEL：0852-24-2000
https://shimane-mazda.dealer.mazda.co.jp/

店舗案内

松江店
〒690-0011
島根県松江市東津田町1083-1
TEL：0852-28-9688

出雲店
〒693-0006
島根県出雲市白枝町635-11
TEL：0853-21-2333

雲南店
〒690-2403
島根県雲南市三刀屋町下熊谷1659-3
TEL：0854-45-2431

大田店
〒694-0041
島根県大田市長久町長久口229-1
TEL：0854-82-0749

益田店
〒698-0036
島根県益田市須子町42-12
TEL：0856-22-1431

三和商事（株）
〒697-0006
島根県浜田市下府町327-16
TEL:0855-22-2525

会社概要

［創　　業］ 昭和16（1941）年12月8日
［事業内容］ マツダ車の新車及び中古車の販売、修理及び車検・点検などの整備業務、部品・用品の販売など
［代 表 者］ 代表取締役　豊島　圭介
［社 員 数］ 103名 （男）82名 （女）21名
※2024年12月現在

島根マツダ80年の歩み

- **1941.12.8** 設立　有限会社山陰合同軽自動車興業会社を設立
  島根、鳥取地区でマツダ3輪トラックの販売普及を開始
- **1952.4** 商号を有限会社山陰軽自動車に変更
- **1952.6** 本社に認証サービス工場併設
- **1954.1** 商号を島根マツダ有限会社に変更
- **1954.2** 出雲店開設
- **1960** R360クーペ販売
- **1962.1** 松江店津田工場完成
- **1964.12** 雲南店開設
- **1966.9** 大田店開設
- **1967.12** マツダレンタカー松江営業所開設
- **1969.7** 益田店開設
- **1972** 島根マツダ労働組合発足
- **1990.11** 島根県マツダ会発足
- **2016.1** 島根マツダ改革プロジェクト(SKP)活動をスタート
- **2016.8** 商号を株式会社島根マツダに変更
- **2017.11** エコアクション21認定
- **2019.1** 企業理念“選ばれ続けよう”を策定
- **2019.5** 雲南店を山陰初の新世代店舗化
- **2021.4** 松江店を新世代店舗化
- **2021.12** 80周年を迎える
- **2022.3** 健康経営優良法人認定
- **2022.10** 近距離モビリティWHILL販売開始
- **2023.11** ロータリーEV発売
- **2024.10** フラッグシップSUV CX-80 発売

新卒採用・中途採用の募集要項はこちらからご確認ください。

大田店整備士 池田 悠さん
2016年入社

働きながら２級整備士を取得

勤務先の飲食店が廃業し、就活中に声を掛けてくれたのが、常連客だった島根マツダの整備士だった。「働きながらでも資格は取れる。面倒見るから心配するな」という声に身を任せた。技術講習に出向く際も出勤扱いになるなど、会社ぐるみの支援で１年後に３級自動車整備士を取得、現在は２級を保有する。「的確な診断で不具合がある車を直せた時は、うれしいですね」

出雲店受付事務 片寄 珠寿花さん
2019年入社

地域に密着したサービスでお出迎え

店舗の顔とも言えるショールーム。「クルマ屋さんって硬いイメージ。入りやすい雰囲気を作り、リラックスして商談できるよう、笑顔でお出迎えしています」。ドリンクサービスでは月限定の企画を考え、地元の和菓子や飲み物を提供するなど地域貢献にも一役。顧客目線に立ったディスプレイやSNS発信も好評だ。「お客様とダイレクトに接することができるのが魅力です」

松江店店長 高柴 厚太さん
2007年入社

お客様の目線に立ったサービスを

広報担当で入社後、営業職に配属。「求められる車と、ご家族のニーズに温度差がある時もあります。さまざまな角度からベストな提案をさせていただき、納得して喜んでもらえるのが一番うれしいですね。大切なのは、常にお客様の目線に立って考えること」。30歳代で店長を補佐する立場に抜擢、スタッフのまとめ役も担う。「接客同様、一人一人に合わせたフォローができれば」

松江店販売 兼折 修平さん
2021年入社

社員同士の仲が良く、助け合える職場

大学生の時に発売された《MAZDA3》に一目惚れし、マツダ車に関わる仕事を志した。「車の運転も人と話すことも好きで、自分以外の人の生活を豊かにする仕事に興味がありました」。現在は車の販売やアフターフォローを中心に行う。「先輩が接客する姿を観察して勉強になるところは取り入れています」。社員同士の仲が良く、わからないことは聞きやすい職場の雰囲気も気に入っている。

店舗ごとに地域密着のサービスを展開

島根マツダは、松江、出雲、雲南、大田、益田の５拠点に店舗を構え、県全域で細やかにユーザーのカーライフを支援。店舗ごとにSNSを発信したり、地元企業とコラボしたドリンクサービスやイベントを企画したりするなどして、地域密着のサービス展開に力を入れる。写真の出雲店では、入荷した試乗車や、オリジナル試乗コースなどをインスタで積極的に紹介。顧客からも好評だ。

地元スポーツチームを支援

1940年の創業当時から、地元公民館に寄付するなど地域貢献に注力してきた島根マツダ。松江をホームタウンとするバスケットボールチーム《島根スサノオマジック》には、発足当初からスポンサーを務め、2021年からヘッドコーチに《CX-5》を贈呈するなどクルマを通した支援にも積極的だ。

❶ クルマ好きはもちろん、入社前は全く興味がなかったという社員も、堅実かつ自由度が高い《島根マツダ》の社風の中、それぞれの力を発揮している ❷ 格好いいデザインと、走る楽しさを重視したクルマ造りにこだわってきたマツダ車。特に「魂動（こどう）」をテーマにしたデザインは国内外から高い評価を受けている ❸ 愛車は７人乗り仕様のクロスオーバーSUV《CX-8》だという豊島社長。「孫が来た時に乗せたいからね」と茶目っ気のある笑顔を見せる

クルマを通して人生に「笑顔」と「感動」を

現場の声に耳を傾け魅力的な店舗を展開

スタイリッシュなデザインと、〝人馬一体〟を掲げる操縦性・走行性の良さが魅力のマツダ車。島根県初のマツダディーラーとして１９４０年から販売を担っているのが、《株式会社島根マツダ》だ。大正時代にはGMやフォードなどの外車を取り扱っていた車好きの初代が創業。現在は32歳で3代目を引き継いだ豊島圭介社長(72)が舵を取る。

「人間の命は寿命があるが、会社の寿命は『先見、勇断、努力』の三つ次第で１００年も２００年も継続できる――。そんな先代の教えを大事にしつつ、クルマを通した感動と笑顔をお客様に届けていきたい」

２０２０年にリニューアルした松江店を始め、県内5拠点でマツダ車の販売やサービス、保険業務などを展開。ライフスタイルや社会情勢の変化に加え、メーカーの方針によっても経営状況が影響される中、80年余ブランドを守り続けてこられた要因の一つは、代々引き継がれてきた堅実な社風だ。豊島社長は、「拡大志向だったメーカーの指示に背いたことで、結果的に当社が危機に陥らなかったことが幾度もありました。父は、ゴルフ場のシャワー室で水を流しっ放しにすることすら嫌がった人間。時代に先駆けてSDGsの意識がありましたね」と語る。

堅実＝守りではない。社風を大切にしつつも、現場や顧客の声に耳を傾けた柔軟な対応やチャレンジが、多くのファンを惹きつけている。豊島社長が例に挙げたのが、試乗車のラインナップだ。世界中で愛され続けているオープンスポーツカー《ロードスター》。かつてはオートマの試乗車しか置いていなかったが、6速ミッションを購入した女性客の言葉を機に変更した。「営業マンを通じてお会いしたら、『社長、デモカーは6速でなきゃ。断然おもしろい』と言われてね。万人受けする品を漫然と並べていてはダメだと思いましたね」

福利厚生の充実にも注力する。男性の育児休暇取得も進み、短時間勤務制度は子どもが小3になるまで利用可能。有給休暇は1時間単位で取得できるため、使いやすく、社員の評価も高いという。23年からは、将来保障の拡大を狙って企業型確定拠出年金制度を導入している。好きな言葉は、京セラ創業者、稲盛和夫氏の「利他の心」だという豊島社長。「お客様や社員、地域あっての会社。一緒に成長していきたい」